

持続可能な社会を考える

——「Global Eye」より“介護保険へ応分な負担を”——

9月20日(金)の「Global Eye」の時間に、生徒たちは“持続可能な介護保険への応分な負担を”(日経新聞)という記事を読み、感想を書きました。生徒たちの書いた感想を家庭に持ち帰り、保護者の皆様にもコメントを書いていただく活動を、7月から月一度程度で始めています。今回で3回目となりますが、今回取り上げた介護保険の問題は大きな反響を呼びました。まさに本校が目指すような持続可能な社会をつくっていくために、日本が乗り越えていかねばならない問題の一つだと思います。この問題に正面から向き合った生徒たちの感想と保護者の皆様のコメントをここに紹介させていただきます。

【新聞記事の概要】

介護保険は2000年度に始まった新しい制度だが、高齢化が進むなか、新たな対応を迫られている。介護費用は13年度予算で9.4兆円と、00年度の2.6倍に膨らんだ。制度の持続可能性を高めるには、利用者に応分な負担を求めるなど、着実な見直しが欠かせない。政府の審議会で本格的な議論が始まった。

高齢者の生活に過度に影響しないよう、負担引き上げの対象範囲は慎重に決める必要があるが、もはや先送りはできない。政治にも一歩、前に踏み出す決断を求めたい。介護が必要になりやすい75歳以上の高齢者は、現在の1500万人から25年には約2200万人に増える。財源の確保やより効率的なサービスなど、10年先を見越した議論が、今こそ求められる。(日経新聞 9/17 朝刊・社説より)

【生徒の感想】

- このニュースはあまり分からなかったし、00年とはどういうことかも分からないけど、介護保険について真剣に考えていることがわかったから、よい保険になってほしいと思った。それに介護費用が9.4兆円にもなるなんて初めて知った。やっぱり高齢者が増えているから、介護保険は必要だと思う。いろいろ見直して安心できる保険にしてほしい。(1年生女子)
- 日本の介護保険制度が始まったのが私たちの生まれた頃。制度がスタートして約15年が経過した。現在の日本は高齢化が進み、介護やデイサービスでの利用者負担はさらに大きくなると思う。財源となる税金の確保が難しいとなると、負担増は仕方がないが、これから先、よりよい議論をし、よい方向に向かってもらいたい。(2年生女子)
- 少子高齢化が進み、介護が必要な人も年々増え続けているので、今までの対策以上にしっかりした対策をとっていて、とてもよいと思いました。国の予算など、経済的問題も多くあるので、年金のような考えや仕組みをさらに充実させていけば、高齢者介護の発展につながっていくと思います。(3年生男子)

【保護者からのコメント】

- 高齢化問題では随分前から言われ続けているが、問題の先送りというのは日本政治のよくないところですね。年金破綻問題で信頼を大きく欠いているので、介護保険については先を見据えた対策が必要だと思います。オリンピック招致が後押ししてくれると期待したいです。(1年保護者)
- 介護される人が増えているのが現実。収入が少ない老人に負担を求めるのはなかなか難しいが、介護保険がどういうものか知りたくなったのはよいきっかけだと思う。いろいろ自分で調べてみてほしい。(2年保護者)
- 現在、税制改革の抜本的な見直しがなされている中で、中学生に対して日経新聞の社説を取り上げ、数十年後の先を考えさせることはすばらしいと感じた。社会保障の財源化は急務であると同時に、少子高齢化で生じる様々な歪みを考えてもらいたい。(2年保護者)
- 5年間で約1.5倍に…というスピードで進む高齢化。他の国にはない早さである。こういう中、施設内ケアを中心に財源の問題に直面し、利用する側の負担見直しの必要に迫られているが、利用を支える(介護)側の処遇改善にもつながる構造見直しをしないと、高齢者を支えるソーシャル・ストラクチャー(社会構造)がぜい弱なものになってしまう。介護をタテワリで考えることはできない。(3年保護者)
- 介護保険制度は社会保険方式を採用しているにもかかわらず、利用者負担を除いた保険給付部分について、保険負担と公費負担とで50:50くらいだと聞きました。今後ますます高齢化が進むことを考えると、これ以上公費負担を増やすのではなく、利用者負担を引き上げていくしかないんだよね。(3年保護者)

生徒たちには難しいテーマだったかもしれませんが、将来を見据え、他人事ではなく自分の問題としてしっかりとらえています。そして何よりも保護者の皆様のコメントがすばらしいと思いました。お忙しい中、ご協力いただき、ありがとうございました。今後もGlobal Eyeのテーマで親子が議論し合うというような場がご家庭で増えてくるとうれしく思います。

蒼葉祭合唱の部中間発表会でのミニ・リサイタル

9月18日(水)に蒼葉祭合唱の部の中間発表会が行われました。各学級とも、一所懸命に頑張ろうとする姿勢がひしひしと伝わってきました。本番はいよいよ今週の土曜日です。クラスの心を一つにして美しいハーモニーと団結力で合唱に懸ける思いを伝えてほしいと思います。各学級ともこの日特別ゲストとしてお招きした声楽家の瀧口晶子さん、中楯有起さんから貴重なアドバイスをいただきました。

その後のミニ・リサイタルはたいへんすばらしいものでした。2人の掛け合い、ハーモニー、声量、躍動感、艶のある声、すべてに圧倒されました。まさに“芸術”にじかに触れ、心洗われるひとときでした。全6曲の伴奏は本校の飯島百合先生が担当。卓越したテクニックは聴衆を魅了しました。

